

日本民俗学会 第70回年会 東京

第2回 サーキュラー

先般、日本民俗学会第70回年会の案内をさしあげましたところ、約320名の参加申し込み、ならびに約120名の発表申し込みをいただきました。心よりお礼申し上げます。

さて、このほど年会の詳細が決まりましたので、第2回サーキュラーをお届けいたします。つきましては、参加費等のお振込みや発表要旨のご提出など、期日までのお手続きを何卒よろしくお願い申し上げます。

日本民俗学会第70回年会実行委員会

主催 一般社団法人日本民俗学会

共催 講研究会

期日 2018年10月13日（土）・14日（日）

会場 駒澤大学駒沢キャンパス（東京都世田谷区駒沢1-23-1）

※近年、観光客が多く、宿泊施設不足が予想されますので、早めの予約をお願いいたします。実行委員会では、宿泊等の斡旋は行いません。

会場アクセス

- ・渋谷駅から東急田園都市線に乗り、「駒沢大学」駅下車。「駒沢公園口」出口より徒歩約10分。 ※急行は停車しません。
- ・自由が丘駅1番バスのりばから東急バス「駒大深沢キャンパス前」ゆきに乗り、終点下車。徒歩約8分。

※会場への経路図等は、第3回サーキュラーに掲載します。

※駒澤大学ウェブサイトの交通アクセスのページもご参照ください。上記以外のバス便についても記されています。

<https://www.komazawa-u.ac.jp/access/>

年会事務局

〒154-8525 東京都世田谷区駒沢1-23-1

駒澤大学文学部地理学科 小田匡保研究室 気付

E-mail minzokugaku70@gmail.com

https://www.komazawa-u.ac.jp/~masaoda/fsj_70/

※連絡はなるべくE-mailでお願いします。

プログラム

10月13日（土）

- 9:00～ 9:30 理事会
9:45～12:00 評議員会
12:00～ 受付開始
13:00～16:00 公開シンポジウム
 「「講」研究の可能性一人のつながりの追究に向けて」
16:15～17:50 研究奨励賞授賞式・会員総会
18:00～20:00 懇親会

10月14日（日）

- 9:00～ 受付開始
9:30～12:00 研究発表（午前）
12:00～13:00 昼食
13:00～16:30 研究発表（午後）

※今年度の年会は、見学会を企画しておりません。

※開始・終了時刻は現時点での予定です。発表プログラムは、9月下旬に参加等申込者に送付する予定の第3回サーキュラーでお知らせいたします。

参加費

		前払い	当日
年会参加費	会員（一般）	2000円	3000円
	会員（学生）	1000円	1500円
	非会員（一般）	—	3000円（当日受付のみ）
	非会員（学生）	—	1500円（当日受付のみ）
懇親会参加費	会員（一般）	5000円	6000円
	会員（学生）	2500円	3000円
	非会員（一般）	—	6000円（当日受付のみ）
	非会員（学生）	—	3000円（当日受付のみ）
発表要旨集代	会員	1500円	2000円
	非会員	—	2000円（当日受付のみ）
発表要旨集送料		360円	—
14日弁当代		700円	—（当日販売なし）

※10月13日（土）昼は大学内の食堂やコンビニが営業していますが、14日（日）は閉店しています。会場周辺には飲食店がいくつかありますが、大勢の人数に対応できる場所はなく、昼食弁当の事前申し込みか持参をおすすめします。

※前払いの会員「学生」料金は、日本民俗学会の2018年度（2017年9月～2018年8月）会費を「学生」料金で納めている会員に適用されます。当日の「学生」料金は、会員・非会員を問わず、年会当日、学生証を提示した方に適用します。

発表要旨集

- ・今年度の年会では、発表要旨集を年会参加費と別料金にします。従来のように参加費だけ納入しても、年会当日に要旨集は配付されませんので、要旨集が必要な方は、要旨集の代金（前払い1500円）も合わせて振り込んでください。
- ・年会当日も、要旨集を若干部数販売いたしますが（当日料金2000円）、売り切れる可能性もありますので、要旨集の購入を希望される方は、必ず期限までに要旨集代を納入してください。代金が期限までに納入されていない場合は、要旨集の取り置きはいたしません。
- ・年会には参加されないが、要旨集の購入を希望される方は、要旨集の前払い代金1500円とレターパックライトでの送料360円、合わせて1860円を期限までに納入してください。年会終了後、要旨集をお送りいたします。
- ・要旨集の内容は、年会より前（9月）に年会ウェブサイト上でPDFファイルで公開します。年会終了後も当分の間、掲載を続けます。

参加費等納入方法

- ・同封の「払込取扱票」に、納入金額の内訳、合計金額等必要事項をご記入のうえ、下記の「ゆうちょ銀行」振替口座にお振り込みください。払込手数料につきましては、恐れ入りますがご負担願います。

【口座番号】00170-7-588005

【加入者名】日本民俗学会第70回年会実行委員会

- ・万一、同封の「払込取扱票」を紛失された場合は、郵便局の払込用紙（青色）の通信欄に、納入金額の内訳（年会参加費・懇親会参加費・発表要旨集代・2日め弁当代等の別）を必ずご記入のうえ、払い込んでください。
- ・年会参加費等の納入期限は**8月17日（金）**です。期日にて振込み口座を閉鎖いたしますので、それ以降は年会当日に当日料金でお支払いください。
- ・参加登録をしながら、参加がかなわなくなった場合、9月25日（火）までにE-mail等にて年会事務局に必ずご連絡ください。ただし、一度納入いただいた参加費等は、いかなる理由があっても返却できません。あしからずご了承ください。連絡がない方で万一、未納金がある場合、年会終了後に請求し、お支払いいただきます。

※期限までに参加費等の納入がなかった場合、名札の事前用意や発表要旨集・弁当の取り置きはいたしません。

※発表を申し込まれた方の場合、期限までに年会参加費を納入いただかないと、発表辞退として扱われますので、十分ご注意ください。

研究発表要旨の提出

一般発表、グループ発表に申し込まれた方は、全員が、「研究発表要旨」と「研究発表登録票」を年会実行委員会事務局へメールで提出する必要があります。

「研究発表要旨」は、年会ウェブサイト上にあるひな形のファイルをダウンロードし、下記の執筆要領を参照して作成してください。

「研究発表登録票」も、年会ウェブサイト上にあるファイルをダウンロードして、必要事項を記入してください。

「研究発表要旨」と「研究発表登録票」とを合わせて、以下の形式でお送りください。

- 【送付期限】 8月17日（金）必着
- 【送付先アドレス】 minzokugaku70@gmail.com （年会実行委員会事務局）
- 【メール件名】 発表要旨（発表者氏名）
- 【ファイル名】 要旨（発表者氏名）、登録票（発表者氏名）
- 【ファイル形式】 要旨：Word ファイル（docx）
登録票：PDF または Word ファイル

※期限までに発表要旨を提出されなかった場合、発表辞退として扱われますので、十分ご注意ください。

※発表要旨は、年会ウェブサイト上で公開されます。

発表要旨執筆要領

- 【ファイル形式】 Microsoft Word ファイル（docx）
- 【ページ設定】 A4 縦長 1 頁、横書き、43 字×38 行、余白（上下左右）25mm
- 【フォント】 和文：MS 明朝、英数字：Century
- 【フォントサイズ】 発表題目（副題も）：12pt（太字）、氏名・所属等・本文：10.5pt
- 【発表題目・氏名・所属等】 ページ最上部中央に発表題目を 12pt のフォントサイズ、太字で記載してください。副題がある場合は、そのすぐ下に同じく 12pt の太字で記載してください。副題を含め、発表題目は「研究発表登録票」記載のものと必ず一致させてください。発表題目の次の行を 1 行あけてから、発表題目の下中央に 10.5pt で氏名を記載し（姓と名の間を 1 字あけてください）、その右側にかっこ書きで所属等を記載してください（所属等の記載にあたっては、下記の「所属の表記について」をご参照ください）。
- 【要旨本文】 要旨本文は発表者氏名より 1 行あけて書き始めてください。フォントサイズは 10.5pt です。図表の挿入は可能ですが、写真の挿入はお控えくだ

さい。なお、出来上がりは白黒印刷になります。

※執筆要領の設定に従っていない場合、実行委員会で体裁を調整します。その結果、文字数が1頁を超える時は、そこで機械的に切りますので、文字数の超過には十分ご注意ください。

※一般発表は発表 20 分・質疑応答 5 分・移動 5 分を 1 ユニットとします。グループ発表については、「グループ発表要旨の提出」を参照してください。

※発表内容は未発表のものに限ります。重複発表が判明した場合は、参加費の納入の如何にかかわらず、発表をお断りすることとなります。

所属の表記について

すでに会誌『日本民俗学』や日本民俗学会ホームページに掲載してお知らせしておりますとおり、第 29 期理事会は、2014 年 7 月 13 日に「日本民俗学会会員の属性、帰属意識の多様性の尊重に関する声明」を公表しております。

この声明にもとづき、第 67 回年会から、参加登録の際の記名、名札、発表要旨集、会場配布レジュメ、質疑応答等での所属・肩書き・立場性の表明は、各人の帰属意識に基づいて主体的かつ自由に表明していただくことになりました。

参加登録の際の「所属」欄をはじめ、発表要旨集、会場配布レジュメ、質疑応答等での所属・肩書き・立場性の表明は、たとえば、つぎのようにお願いいたします。なお、所属・肩書き・立場性の表明は、原則として一人一つでお願いします。

例：山田 太郎（〇〇市立博物館）、山田 花子（〇〇大学大学院生）、山田 太郎（〇〇民俗学研究会）、山田 花子（〇〇県）、山田 太郎（NPO 法人〇〇）、山田 花子（自営業）、山田 太郎（株式会社〇〇）、山田 花子（会社員）、山田 太郎（インディペンデント・フォークロリスト）、山田 花子（〇〇大学非常勤講師）など

グループ発表要旨の提出

グループ発表の代表者は、個別の「研究発表要旨」とは別に、グループ発表全体についての要旨（「グループ発表要旨」）を期日までにご提出ください。書式は「研究発表要旨」と同一です。

【送付期限】 8 月 17 日（金）必着

【送付先アドレス】 minzokugaku70@gmail.com （年会実行委員会事務局）

【メール件名】 グループ発表要旨（代表者氏名）

【ファイル名】 グループ発表要旨（代表者氏名）

【ファイル形式】 Word ファイル（docx）

※代表者を含め、グループ発表にて発表される方は全員、「グループ発表要旨」とは別に、「研究発表要旨」と「研究発表登録票」の提出が必要です。上記の「研究発表要旨の提出」をご参照のうえ、ご提出ください。

※グループ発表の時間枠は120分です。枠内の時間配分は、代表者にお任せいたします。

※グループ発表には適宜、司会を設定していただくことができます。司会の登録は必要ありませんが、プログラムへの記載もいたしません。なお、実行委員会側からの座長の配置はいたしません。

※グループ発表にはコメンテーター等を設定していただくことができます。研究発表登録の必要はありませんが、代表者の「研究発表登録票」通信欄にコメンテーター等の氏名をご記入くだされば、プログラムへの記載をいたします。

使用機材

備え付けの機材は、PC（Windows）と PC 用液晶プロジェクターです。PC（Windows、Mac）の持ち込みも可能です。その場合は、「研究発表登録票」の使用機材欄にその旨をご記入のうえ、PC 本体および対応するアダプターをお持ち込みください。発表の形式によっては、備え付けの PC で対応できない場合があります。

無線 LAN は、eduroam の利用が可能です。詳細は、所属機関でお尋ねください。

書籍販売の申し込み

会場に書籍販売コーナーを設けます。販売を希望される会員・研究会・出版社・団体は、下記の要領でお申し込みください。委託販売はお受けできません。会場の都合で十分なスペースを確保できない場合も予想されます。予めご了承ください。販売は10月13日、14日に限ります。

【申し込み方法】

年会ウェブサイト上の「書籍販売登録票」に記入のうえ、**9月7日（金）**までに年会実行委員会事務局（minzokugaku70@gmail.com）宛に PDF または Word ファイルでお送りください。その際、メールの件名は、「書籍販売希望（会員・研究会・出版社・団体名）」としてください。

【出展費用について】

- 会員個人……無料
- 会員の所属する研究会・学会……無料
- 2018年度（2017年9月～2018年8月）協賛団体……無料

○協賛団体ではない出版社・団体

- ・会員が社員である場合……無料
- ・会員が社員でない場合……販売担当者の人数によらず、**出展費用 3000 円**を申し受けます。当日、受付でお支払いください。
- ・公共団体職員が機関の刊行物を販売する場合（職員であることを証明できることが条件）……無料

※懇親会については、会員以外は、1人につき非会員（一般）参加費 6000 円を、当日、受付でお支払いいただくことにより参加可能とします。

【搬入・搬出など】

書籍の搬入・搬出方法など、詳細は、「書籍販売登録票」をお送りいただいた後にお送りする「書籍販売の手引き」でご説明いたしますので、それに従ってください。

広告の募集

発表要旨集への広告掲載を希望される方は、8月10日（金）までに年会実行委員会事務局（minzokugaku70@gmail.com）宛、メールで詳細をお問い合わせください（メールの件名は、「広告掲載の問い合わせ」としてください）。

年会実行委員会から「広告掲載のお願い」の文書を受けとられた出版社・団体は、このお問い合わせは不要です。

託児室

今年度の年会では託児室を開設します。利用申し込み方法などの詳細は、8月上旬に年会ウェブサイトに掲載します。

ツイッター

今年度の年会実行委員会は事務局のツイッターを開設しています。随時、情報を掲載しますので、年会サイトと合わせてご利用ください。

ツイッターの名前は「日本民俗学会第70回年会実行委員会事務局」、ユーザー名（ID）は「@fsj_70」です。

今後の日程

参加費等納入期限 8月17日（金） これ以降は当日料金になります。

発表要旨提出期限 8月17日（金）

書籍販売申し込み期限 9月7日（金） 書籍販売登録票提出

第3回サーキュラー 9月下旬発送予定（参加等申し込みの方のみ）

内容：会場案内、発表要領、各発表会場プログラム

公開シンポジウム

「講」研究の可能性 一人のつながりの追究に向けて―

趣旨

現代社会は、ある面で人のつながりを捉えにくい社会である。それは、広域に展開する交通網の整備が地理的な制約を取り払い、昨今の急激な情報技術の高度化が対面すら必要としないあらたなつながりをもたらしていることに象徴される。こうした多様化する人のつながりを改めて主題化することは、現代的な意味を持つテーマであるといえよう。

人のつながりについては、民俗学も地域社会をフィールドとした多くの成果がある。なかでも櫻井徳太郎は、研究課題の一つに「講的人間結合の本質」の解明を挙げ、講を事例としてその結合そのものを主題化しようとした。しかし、その作業は課題を示すだけにとどまっている。本シンポジウムではこの主題を継承しながらも、対象を講の周辺、講以外の集団にまで広げ、人間結合、人のつながりのあり方を考察したい。

講の総合的な把握は困難さがつきまとう。構成員やその性格は多様で、かつ一つの講集団が性格を変化させながら存続していく例も多いからである。しかも講集団は必要に応じて結ばれ、必要がなくなれば解かれる性格も持つため、内部のつながりは緩やかなものとなる。本シンポジウムでは、この講集団のつながりの緩やかさにあえて注目をしていきたい。人のつながりが緩やかで、固定化することがないままに集団の分析は、多様化する人のつながりを視野に含むことができ、さらに緩やかなつながりだからこそ社会に活用される様をも分析の俎上に乗せることができるのではないか。そしてこのつながりの特徴を注視する姿勢により、講集団だけにとらわれない視点から、櫻井が解明しようとした「講的人間結合の本質」の追究が可能になるのではないか。

本シンポジウムでは講の持つ人のつながりの緩やかさ、講集団そのものの緩やかさに着目して「講的」な人のつながりを問う方向性を示し、「講」研究の可能性を探ってみたい。

日時 2018年10月13日（土）13:00～16:00

会場 駒澤大学駒沢キャンパス

報告

川又俊則（鈴鹿大学）「人生100年時代の信仰グラデーションと講集団」
菅根幸裕（千葉経済大学）「講・近世から近代への変容 ～房総の事例から～」
戸邊優美（埼玉県立歴史と民俗の博物館）「女講中と女性同士のつながり」

コメンテーター 福田アジオ
三木一彦（文教大学）（順不同）
コーディネーター 高木大祐（成城大学民俗学研究所）

日本民俗学会・ドイツ民俗学会共催国際シンポジウム

ドイツ民俗学の最前線

日時 2018年10月14日（日）13:00～17:00

会場 駒澤大学駒沢キャンパス

プログラム ※日本語通訳がつきます

挨拶

ヨハネス・モーザー Johannes Moser（ミュンヘン大学・ドイツ民俗学会会長）

発表

ベアーテ・ビンダー Beate Binder（フンボルト大学）

「ヨーロッパ民族学・文化人類学における横断的ジェンダー研究」

モーリッツ・エゲ Moritz Ege（ゲッティンゲン大学）

「ドイツにおけるポップカルチャー研究の現況

ー反エリート主義的モチーフをもとに」

ゲアトラウド・コッホ Gertraud Koch（ハンブルク大学）

「進展する記憶文化」

フリーデマン・シュモル Friedemann Schmoll（イエーナ大学）

「民俗学的視点による自然と文化に関わる諸相」

全体討論

ドイツ民俗学会若手研究者ポスターセッション

国際シンポジウム「ドイツ民俗学の最前線」開催にともない、ドイツ民俗学会の若手研究者によるポスターセッションを実施します。ポスターは、年会会期中の10月13日（土）13:00から10月14日（日）17:00まで、ポスターセッション会場に掲示します。

日時 2018年10月14日（日）12:00～13:00（昼食時間帯）

会場 駒澤大学駒沢キャンパス

発表

ラウラ・ゴッツァー Laura Gozzer (ミュンヘン大学)

「“Save Me”と都市：ミュンヘンの難民支援における都市的倫理の主観化」

オヤ・レツニコヴァ Olja Reznikova (ゲッティンゲン大学)

「トラック運転手ストライキにおけるキッチンの役割：ロシアにおける抗議運動の前提条件と矛盾としての再生産とケアワーク」

アリク・マズカトフ Alik Mazukatow (フンボルト大学)

「法を活用し、道徳を変える：社会的実践としての差別禁止法」

使用言語 英語